

ほだ木検体採取の流れ(平成26年1月14日版)

解除のための検査は、1ロット3検体(1本から1検体)
 通常の検査は、1ロット1検体(3本から1検体)

①ロット区分

②ロットの表面線量率測定(任意)

均一
or 未測定

③ほだ木の選定基準

- ア 直径が最も細いほだ木
- イ 地面に近いほだ木
(井桁伏せの場合)
- ウ 3本はロット全体から均等に採取
優先順位はア>イ>ウ

③ほだ木の選定基準

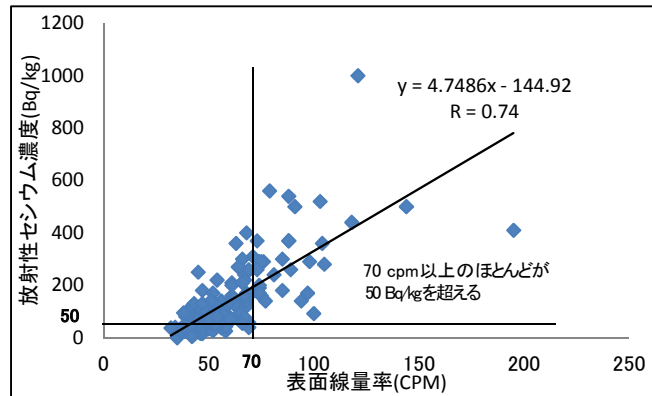
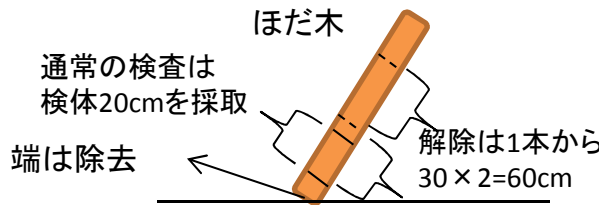
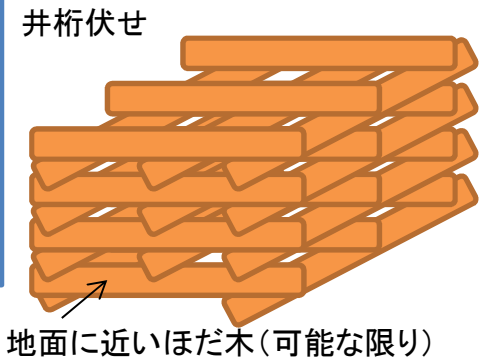
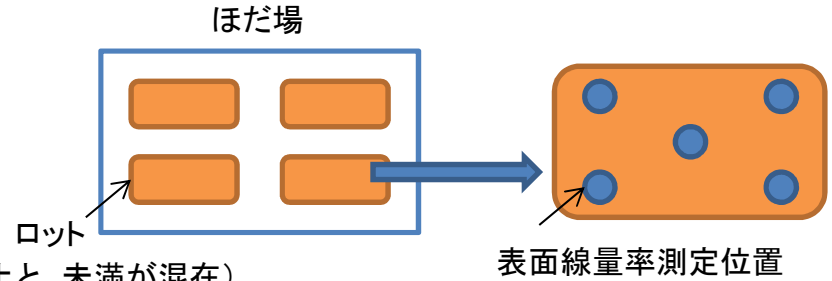
- ア 表面線量率の高い(70cpm以上が目安)箇所から採取
- イ 直径が最も細いほだ木
- ウ 地面に近いほだ木(井桁伏せの場合)
優先順位はア>イ>ウ

④検体の採取方法

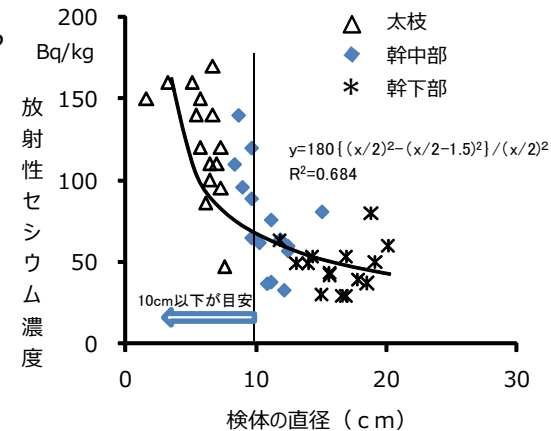
- ア 地面に近い側から採取
- イ 移動させて上下が不明ならば、両側から採取
- ・端を切り落として合計60cm分を採取
- ・苔は濃度が高いので、除去
- ・おが粉2L分を確保

⑤検査機関に送付

- ・2L容器での検査が望ましい
(100mlだとばらつきが大きい)



ほだ木の表面線量率と放射性セシウム濃度の関係



原木の直径と放射性セシウム濃度の関係
 出典: 岩澤ら(2013): コナラ林におけるシイタケ原木の放射性セシウム濃度のばらつき(一部加工)